

## 5-8. SDGs における防災意識

私たちが生活する地球が危機の時代に入ったとして、再生能力を超えない持続的な行動をする 2030 年を期限とした目標とターゲットを策定されました。そして、その期限が 10 年を切ってしまいました。これまでも企業や自治体で、様々な取り組みをしてきましたし、新たな展開もあります。ここの掲げられている 17 の目標はあらゆる生活環境の在り方に及んでいますので、例えば防災減災ということでも、直接間接を問わず、あらゆる目標、ターゲットに関係しています。つまり持続可能な企業や社会の在り方は、個人の生活スタイルにも影響することになるわけで、何をどうすべきなのかを取り組む義務を背負っていることとなります。日本列島は毎年、様々な自然災害を経験してきていることで、その被害を最小化することにその対応を模索しています。それには、正しい知識を基にして発生前、発生時、発生後の段階ごとにいかに行動を起こすことが可能なのかについて、ハード、ソフト対策に腐心しているところです。そして、そのような継続的な作業自体は限定的に狭いところで構想することは望ましくありません。できるだけ、視野を広げて、さまざまな視点と社会の変化に呼応するものでなければなりません。その視点ということこそ、この目標を関連させて防災を考えていくこと自体が再生可能な地球に貢献できる実務になるのだと思います。

防災は、そもそも生活環境を自然現象から守るというところにあるわけですが、その一番脅威なのは、我々の生活スタイルが自然災害を大きくしてしまっているのではないかと、そうすると防災は際限なく巨大化させてしまって、対応できないほどになってしまうことです。ということになります。我々が防災を可能にする上でも、地球が再生可能な存在でなければなりません。防災の目的は、その地域で安全に安心して暮らすことができるということは、産業、医療、教育、福祉とともに防災が立体的な関係でなければなりません。つまり、相互の関連を強くして、どこの切り口からアプローチしても、多面的な視点が必要になると思います。そして、これらに共通するのは、安全、安心、地域の縁、利便性、継承などがあり防災を通じて相互支援の力が醸成されるということが期待できます。

地域防災は、日本の片隅でちまちまと自分たちのことだけだと思われるかもしれませんが、実は地域の人の活動も SDGs につながっているわけで世界とつながっているということになります。防災を考えるということは、地域の持続可能性でもあり多様な視点から構想していくという作業で我々を賢くします。そして、次世代へ継承することは、地球の再生力を維持していくこと、自然現象と共生することにつながります。地域の持続性だけを考えても人、自然、生活が密接に相互に関連しているわけで、防災に取り組むことが様々な工夫や知恵へと拡大していくということからにプライドを感じても良いのかもしれません。

こんな話があります、「人が健康になるには、医者や薬やサプリメントは不要で、食事と運動です」というわけで、自分たちの生活防衛は自分たちの知識、意識と行動での実践であるということだと思えます。この在り方に気づくことこそが、SDGsに通じることになるように思えます。対応や対策をしない場合の悪影響ととるべき対策を比較検討して、大小

を問わずに行動をすること自体がG（ゴール）になるのだと思います。